

緑の地球ネットワーク イベント記録 (2025 年度)

2026 年	
3 月 26 日	GEN なんでも勉強会オンライン 失われた夢洲から描く大阪湾の自然再興
2 月 26 日	GEN なんでも勉強会オンライン 気候危機にどう向き合う？ COP30 ベレン会議 現地からの最新レポート
2 月 21 日	GEN 自然と親しむ会 山田池公園でバードウォッチング
1 月 22 日	GEN なんでも勉強会オンライン 気候危機は水の危機 NGO ウォーターエイドの活動
2025 年	
12 月 11 日	GEN なんでも勉強会オンライン 大阪と兵庫の滲水湿原を知ろう ～その成り立ちと生きものたち
11 月 27 日	GEN なんでも勉強会オンライン 日本の薬草の歴史と現状
10 月 28 日	GEN なんでも勉強会オンライン チベットの医学とヒマラヤの薬草
10 月 18 日	GEN 自然と親しむ会 秋のきのこを見に行こう
9 月 27 日	GEN なんでも勉強会オンライン タネからはじまる森づくりー苗木生産の現場から
9 月 4 日	黄土高原スタディツアー報告会
8 月 22 日～27 日	2025 年 8 月 中国黄土高原スタディツアー
7 月 30 日	GEN なんでも勉強会オンライン 環境と平和
6 月 14 日	GEN 第 31 回総会記念講演 農村からみた現代中国
5 月 29 日	GEN なんでも勉強会オンライン 森をあそぼう 森でまなぼう 北欧発祥の森林環境教育プログラムの紹介
4 月 23 日	GEN なんでも勉強会オンライン 1.5℃をめざす世界の動き ー気候変動に関する国際交渉会議(COP)の最新レポートー

GEN なんでも勉強会オンライン

失われた夢洲から描く大阪湾の自然復興

～ 開催要項 ～

大阪関西万博会場となった夢洲は、絶滅危惧種の渡り鳥が繁殖する生物多様性のホットスポットでしたが、開発によってその多様性は失われました。夢洲以外にもいくつか残る大阪湾の豊かな自然を保全するためにどうすればいいのかともに考えましょう。

日時	2026 年 3 月 26 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	垣井清澄さん（（公社）大阪自然環境保全協会）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	17 名
------	------



海の埋立ては自然の海岸や干潟を破壊しますが、あらたな海岸や干潟を作り出し、生物多様性のホットスポットになることもあります。夢洲も絶滅危惧種の渡り鳥が繁殖する貴重な場所でしたが、万博・IRのための開発によってその多様性は失われました。万博開催にあたって「夢洲では多様な鳥類が確認されていることから（中略）湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること」という市長意見が出され、一応の

配慮はあったものの十分ではなく、さらにこの意見は万博終了後は無効なのだそうです。

大阪自然環境保全協会をはじめとするいくつかのグループが、万博にあたってはもちろん、万博後も、大阪湾の自然を保全・再生するために、大阪湾再生行動計画や大阪環状ベイエリア構想を策定するなどさまざまな働きかけを行っています。大阪湾の自然再興は、30by30の達成にも大きく寄与するはずで、これからも大阪湾の自然再興の動きに注目し、協力していきましょう。

GEN なんでも勉強会オンライン

気候危機とどう向き合う？

COP30 ベレン会議現地からの最新レポート

～ 開催要項 ～

気候危機が急速に深刻化するなか、2025年11月にブラジルのベレンで開催されたCOP30。森林のCOPとも呼ばれた会議で森林保全についてどのような議論があったのかなど、現地参加した田中十紀恵さんに報告していただきます。

日時	2026年2月26日（木）19時～20時30分
手段	Zoom
講師	田中十紀恵さん（認定NPO法人気候ネットワーク）
参加費	無料
定員	100名

～ 開催記録 ～

参加人数	19名
------	-----



COP30の会場にアマゾンの玄関口・ベレンを選んだのは、森林保全と先住民の役割を重視したことの表れでもあります。開発と山火事で急速に失われつつあるアマゾンの森林は、CO2の吸収源から排出源へ転じてしまう危機にあります。今回めざした「化石燃料からの脱却」と「森林破壊の逆転」のロードマ

ップ策定は残念ながら次回に持ち越しになりました。成果としては、排出削減目標に関するNDC（国が決定する貢献）提出や強化への取り組み、また、脱炭素社会への移行で職を失うなど影響を受ける労働者や地域の権利を守る「公正な移行」のための枠組の設立決定などがありました。また、各国政府や民間が出資する熱帯雨林保護基金の設立が決まりました。

自分にできることはないだろうかという人は、気候ネットワークが作成した「気候アクションガイド」をご覧ください。[こちら](#)からダウンロードできます。

GEN 自然と親しむ会

山田池公園でバードウォッチング

～ 開 催 要 項 ～

落葉樹の葉が落ちる冬はバードウォッチングの季節。GEN 恒例となった高田みちよさん案内のバードウォッチング、今回は池、林、草地がそろう枚方市の山田池公園でおこないます。野鳥観察の初心者も大歓迎。お気軽にご参加ください。

日時	2026 年 2 月 21 日（土）10 時～15 時 00 分
場所	大阪府営山田池公園（枚方市）
講師	高田みちよさん（高田組）
参加費	800 円（GEN 会員 300 円）
定員	20 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	19 名
------	------



上左・右 梅の花
上中 水鳥を観察する参加者
中左 ミコアイサ♂
中中 カワセミ♀
中右 ヌートリア
下左 カモの翼
下中 アオサギの頭
(中段・下段 藤田修二さん撮影)

会場の山田池公園は地域の憩いの場であり、バードウォッチングスポットでもあります。2 月にしては暖かな好天で、梅見客がいっぱい。園内の看板によると、なんでも戦前は万を数えるカモが飛来したとか。この日観察した鳥は 33 種類。愛称パンダガモのミコアイサ♂や、カワセミ♀をじっくり観察することができました。アオバトとオシドリを見ることができなかったのが残念でした。

ところでこの日のハイライトは、生きた鳥ではなく鳥の遺体でした。

まずはカモの翼。タカが残した翼をハシボソガラスが拾ってきたものの、「食べるとこないやん」と落としたものでしょうか。講師の高田さんは早速実物を手に翼の構造や各部の名称、羽の働きなどを解説してくださいました（菌やウイルスなどが付着している恐れがあるため、鳥の遺体には触らないでください）。もうひとつはアオサギの頭部。猛禽は獲物の頭部を切断して胴体だけを持ち去ることがあるそうで、その残骸ではないかということでした。アオサギは大きいのにタカにやられるのかと驚きましたが、正味は二ワトリとかわらないとのこと。このふたつの遺体は、標本にすべく高田さんが大切に持ち帰られました。

GEN なんでも勉強会オンライン

気候危機は水の危機 NGO ウォーターエイドの活動

～ 開催要項 ～

気候危機は水・衛生の危機でもあります。22 か国で活動する国際 NGO ウォーターエイドは給水やトイレのレジリエンス強化、政策提言と政府連携の取り組みを続けています。気候危機が水、衛生に与える影響などについて高橋郁さんといっしょに考えます。

日時	2026 年 1 月 22 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	高橋郁さん（認定 NPO 法人 ウォーターエイドジャパン 事務局長）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	21 名
------	------



世界できれいな水が使えない人が約 7 億人、清潔なトイレが使えない人が約 15 億人。豊富なデータと実例を通して、世界の水危機の現状が鮮やかに描き出されました。アフリカ・アジア・中米で活動するウォーターエイドは、きれいな水、清潔なトイレ、よい衛生習慣の 3 つを重点目標とし、地元スタッフ

を通じて地域の必要を汲みとって地域のモデルになるような協力を続けています。この 20 年余りで世界の水・衛生状況はかなりの改善が見られるものの、このままのペースでは SDGs ゴールを達成できるのは 40 年以上先だとか。一方で、気候危機によって、水・衛生問題は深刻化することが予想されています。深刻な水不足の中で生活する人口は現在の 42%から 2050 年には 95%に増加し、今後 20 年間でコレラ患者が倍増する可能性があり、自然災害の 90%は水に関係するものであるそう。干ばつも洪水も、激甚化がすすんでいます。

気候危機が水・衛生問題を悪化させるなら、それは私たちの普段の生活にも関係します。例えば、T シャツ 1 枚を作るのに必要な水の量は約 3000 リットル。何かできることがありそうです。

GEN なんでも勉強会オンライン

大阪・兵庫の滲水湿原を知ろう～その成り立ちと生きものたち

～ 開催要項 ～

保水能力や洪水調整など多面的な機能を持つ湿原ですが、その成り立ちを知っていますか？ 瀬戸内、東海に多い滲水湿原、なかでも大阪・兵庫の滲水湿原についてお話しいたします。

日時	2025 年 12 月 11 日（木） 19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	武田義明さん（神戸大学名誉教授、紫金山みどりの会会長）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	18 名
------	------



湿原といえば、尾瀬とか釧路などを思い浮かべますが、これらとはちょっと違った成り立ちなのが滲水湿原です。文字通り、「水が滲む(にじむ)」ような場所に成立します。山肌を削ったところに出現したり、周囲に木が茂ると消えてしまったりする、デリケートな湿原です。

滲水湿原には独特な生態系があり、県の絶滅危惧種や、種の南限・西限にあたるような種も存在します。開発が決まった後に絶滅危惧種がある

と判明し、他の場所に湿原を“造成”して移植したもののその植物は消滅してしまったという残念なお話も。周囲に木が茂ってくると木に水分を奪われて消えてしまうような滲水湿原ですが、地域の種の多様性や、種の分布域を守るためにも保全が大切なことがわかります。その保全は現在ボランティアが主導で、行政などの支援がないと大変だそうです。

個人的には、滲水湿原の植物に、「イトヌノヒゲ」がつく名前のものがいくつもあり、愛犬家が名付けたのだろうかと思像して面白かったです。

GEN なんでも勉強会オンライン

日本の薬草の歴史と現状

～ 開催要項 ～

長野県で森のくすり塾を主宰する小川康さんにお聞きする薬草のお話 2 回目。日本でもかつては日常的に用いられていた薬草ですが、その文化は失われてしまいました。ある種の薬草は山野に自生しているにもかかわらず、漢方薬の原材料はほとんどを輸入に頼っています。そんな日本の薬草の歴史と現状についてうかがいます。

日時	2025 年 11 月 27 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	小川康さん（森のくすり塾主宰）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	18 名
------	------



キハダ。黄色い部分に有効成分ペルペリンを含む。その部分を採取後、樹皮を戻し再生させる。



ムラサキ。有効成分はシコニン。紫雲膏という軟膏は火傷や痔疾治療に用いられる。



婦人薬でおなじみの当帰。



小学生がヨモギを集める。



山伏と薬の材料を集める。

流通している漢方薬の原料となる薬草は、ほぼ輸入品だそうです。薬事法などの関係で、自給はほぼ絶望的とか。国内にもけっこう自生しているのに残念です。自分で採取して利用することは可能ですが、薬も過ぎれば毒、知識がないと危険です。小川さんは「森のくすり塾」でそうした知識を伝える活動もしておられます。

長野県の小学校では全校生徒がヨモギを集めるイベントがあった（コロナ禍でなくなってしまった）話とか、修験者といっしょにキハダを採取した話とか、医学生・薬学生を募って薬草のフィールドワークをした話とか、面白いお話もうかがえました。

昔のように日常生活で薬草を活用することはむずかしいですが、ヨモギやドクダミなど食品として取り入れられるものもあります。地域に自生する薬草を調べて、ハイキングの時に生えていないかチェックするのもいいですね。失われる寸前の薬草文化、なんとか絶やさずにいたいものです。

GEN なんでも勉強会オンライン チベットの医学とヒマラヤの薬草

～ 開催要項 ～

長野県で森のくすり塾を主宰する小川康さんをお招きして薬草のお話を伺います。2 回連続講座の 1 回目。ヒマラヤの青いケシ、雪蓮花、イラクサ、麻黄、大黄をはじめとして、チベット医学に用いる薬草とともに、その薬草を採取すべく奮闘するチベット医学生たちの姿を紹介します。

日時	2025 年 10 月 28 日（火） 19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	小川康さん（森のくすり塾主宰）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	22 名
------	------



チベット医学と薬草



黄耆



麻黄



小川康



雪蓮花



小川康



薄荷



大黄



小川康

チベット医学は仏教思想やインドのアーユルヴェーダと結びつき、その基本医学書である四部医典は 8 世紀に編纂されたそう。チベット医科大学で学んだ最初の外国人である小川康さんが、チベット医学の大きな部分を占める薬草を中心に紹介してくださいました。チベット医科大学に学ぶ学生は、年に一度 3 週間、ヒマラヤ山中で薬草を採取するそうです。文字通り命がけの厳しいもので、日にちの感覚もなくなり、五感が研ぎ澄まされていく体験だったとか。そ

んな危険を冒してまで薬草採種に取り組む医学生たちを支えるのは、患者のためという意識でした。チベット医は薬草の採取、処理から調剤までを一貫しておこない、患者によりそって治療します。麻黄やウスユキソウ、サージなど、黄土高原でおなじみの植物もでてきて懐かしかったです。

いまではチベット医の数が多くなってしまったため、チベット医科大学はもっぱら外国人向けとなり、危険な薬草採種はなくなってしまったとか。こんなところにも時代の波が…。

GEN 自然と親しむ会

秋のきのこを見に行こう

～ 開催要項 ～

秋はきのこの季節、講師の栗栖敏浩さんの案内で吹田市の万博木根公園を訪れます。平坦で歩きやすく、意外ときのことに出会える場所です。

きのこを観察しながらそれぞれの特徴や役割について学びましょう。軽いハイキング気分で秋の万博記念公園の散策を楽しめます。初心者大歓迎です！

日時	2025 年 10 月 18 日（土）10 時～15 時ごろ
場所	万博記念公園（吹田市）
講師	栗栖敏浩さん（樹木医、（株）松本微生物研究所）
参加費	一般 700 円、GEN 会員 300 円
定員	20 名

～ 開催記録 ～

参加人数	9 名
------	-----



シロソウメンタケ



午前中に集めたキノコを同定



トガリベニヤマタケ



カイガラタケ



同定した結果



アカハツ



キツネノタイマツの幼菌



キツネノタイマツ



しおれたキツネノタイマツ

GEN のきのこ観察会は好天、つまりきのこ観察に適さない天候のことが多いのですが、今回は2日前に降雨があり、20 種以上のきのこを観察できました。きのこはその働きによって、樹木と共生する外生菌根菌、木材を分解する木材腐朽菌、落葉を分解する落葉分解菌にわけられます。今回はそのすべてのグループを見ることができました。かさが分厚く食べ応えがありそうなイグチの仲間にはキノコバエが産み付けた卵から孵った幼虫（ウジ）がいっぱい入っていましたが、その種類を同定するには苦いかどうか味をみる必要が…。

また、最後に見つかったキツネノタイマツは、卵のような幼菌もあって、割ってみると中にオレンジ色のキノコの原型を見ることができました。

温暖化できのこも時期がずれたり、種類や数が減ったりしていますが、気を付けてみると身近な場所でも見ることができます。植え込みや芝生などで観察してみましよう。

GEN なんでも勉強会オンライン

タネからはじまる森づくりー苗木生産の現場から

～ 開催要項 ～

生物多様性のための在来種の苗木など、時代とともに求められる樹種や生産方法が変わるなか、苗木生産の現場はどうなっているのでしょうか。滋賀県東近江市にある松居農園の松居琴子さんをお招きし、苗木生産の現場のようすをお話しいたします。

日時	2025 年 9 月 27 日（土）12 時 30 分～15 時ごろ
手段	Zoom
講師	松居琴子さん（松居農園（株）取締役、農業生産法人（有）木楽ファーム代表取締役）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	14 名
------	------

タネからはじまる森づくり ～苗木生産の現場から～



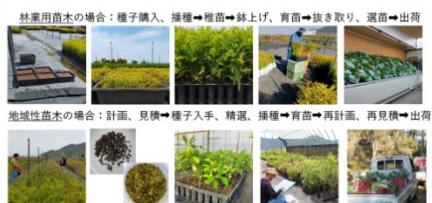
緑の地球ネットワークGENなんでも勉強会
2025年9月27日
松居農園株式会社 松居琴子



2022年6月第72回全国植樹祭（滋賀県にて開催）



苗木生産というビジネス



GEN が中国黄土高原で植えた木は約 1900 万本。苗木生産者にはそれだけお世話になったのに、会ったり話を聞いたりしたことはありません。今回、生産現場のお話をうかがいとても勉強になりました。

一般的に苗木の用途は、都市用（住宅、公共施設等）、林業用に分かれていますが、松居農園ではさらに里山用にトレーサビリティを重視した地域性苗木も生産販売しております。

林業苗は、温暖化で苗木の成長と出荷のタイミングをあわせるのがむずかしくなったそうです。また、公共施設に植える苗木は、数年かけて育ててから納入するのですが、途中で計画が中止になるとせっかく育てた苗木を処分しなければならないことも…。地域性苗木では、比良山スキー場跡地の緑化や、企業とコラボして水源の森保全など、環境や生物多様性の保全にも実績があります。庭木も扱っておられるので、お悩みの方はご相談いただけます。

また、公共施設に植える苗木は、数年かけて育ててから納入するのですが、途中で計画が中止になるとせっかく育てた苗木を処分しなければならないことも…。地域性苗木では、比良山スキー場跡地の緑化や、企業とコラボして水源の森保全など、環境や生物多様性の保全にも実績があります。庭木も扱っておられるので、お悩みの方はご相談いただけます。

GEN なんでも勉強会オンライン 黄土高原スタディツアー報告会

～ 開催要項 ～

コロナ禍の自粛以来 6 年ぶりの黄土高原スタディツアー。現在の協力地河北省張家口市蔚県と、以前の協力地山西省大同市を訪ねました。蔚県では地元の事情で緑化協力地の村を訪ねることができず、植樹、交流ができませんでしたが、打樹花や飛狐峪など、自然や歴史を堪能。大同では呉城郷のアンズ果樹園の変化や、采涼山のマツの成長を確かめることができました。

今回は雨で道路が崩れるなどして予定通りにいかないことも多かったのですが、そのなかでも GEN のツアーならではの体験をしていただけたと思います。

日時	2025 年 9 月 4 日（木） 19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	29 名
------	------



蔚県の平地にもソーラーパネル



溶けた鉄を壁に打ち付ける打樹花



雨で水没した道路



西古堡の古い街並み



製作途中の切り絵



羊のしゃぶしゃぶの鍋を囲む



大同のマンション群を橋から望む



雲崗石窟第6窟に入るための行列



大同の街中の様子



大同→北京を2時間でむすぶ高速鉄道



武春珍さん、魏生学さん、王萍さん

今回のツアーは中国は初めてという方から久しぶりという方まで、年齢は 10 代から 80 代までの、GEN のツアーならではのバラエティに富んだ参加者層でした。平均年齢は高めでしたが、みなさんエネルギーに中国を楽しんでおられました。参加者の感想は中国に対するものになりがちでしたが、今回のツアーがどういう旅だったか、関心をお持ちの方に少しでも伝わっていれば幸いです。

2025 年 8 月 中国黄土高原スタディツアー

～ 開 催 要 項 ～

コロナ禍で実施できなくなった黄土高原スタディツアーを 6 年ぶりに実施します。現在の緑化協力地、河北省張家口市蔚県では飛狐峪や空中草原、打樹花で自然と芸能を堪能した後、今年の協力プロジェクト地・大探口村で村人との作業や交流を楽しみましょう。以前の協力地・山西省大同市も訪れ、カササギの森などが成長した姿を確認めます。また、大同のスタッフとの旧交を温めましょう。蔚県や大同は、立秋を過ぎると秋。残暑の日本を離れ、束の間の避暑を楽しめます。

日程	2025 年 8 月 22 日（金）～8 月 27 日（水）
場所	中国河北省張家口市蔚県、山西省大同市
参加費	関空発着（CA 利用）191,000 円、羽田発着（JAL 利用）206,000 円 空港使用料、国際観光旅客税、現地空港税、航空特別保険料、燃油サーチャージ別途。学生割引 5 万円。GEN 会員でない方は別途会費が必要。
定員	20 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	21 名
------	------



【蔚県】レジャー客が増えた飛狐峪。



飛狐峪付近で植物観察。



代王城鎮のアンズ果樹園は順調。



【大同】呉城郷のアンズ果樹園見学。



采涼山のマツが立派に育っている。口泉植物園に残るセンターのシダレニレ



【大同】呉城のアンズはプルーンに継替え。



観光客で賑わう雲岡石窟。



口泉植物園の友好苑は管理棟跡。

雨が多いツアーでした。そのため道路事情で空中草原やカササギの森に行けなかったり、また、地元の事情で村での作業・交流が中止になったり、楽しみにしていたことができてなくて申し訳なかったです。けれども蔚県でも大同でも、以前に植えた木々の成長を確認することができました。大同の呉城郷では、アンズの凍害を避けるためにプルーンに継ぎ変えている様子を見ました。温暖化でアンズの開花期が早まり、開花後に寒の戻りにあって花や幼果が落ちてしまうのです。プルーン

はアンズより開花期が遅いため凍害にあいにくいそうです。新しい問題に地元でしっかり対処していたのもしく思えました。

GEN なんでも勉強会オンライン

環境と平和

～ 開催要項 ～

平和の反対は何でしょう。戦争？ では、戦争がなければ平和なののでしょうか。

今年は第二次世界大戦後、また、広島・長崎原爆投下後 80 年ですが、ウクライナで、ガザで、そして世界の各地で戦争や紛争が続いています。いま、あらためて平和について、平和のために私たちにできることについて考えてみましょう。

日時	2025 年 7 月 30 日（水）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	小倉亜紗美さん（呉工業高等専門学校准教授）
参加費	無料
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	12 名
------	------

平和って？
平和な社会って？

戦争がない社会
(直接的暴力)

構造的暴力
がない社会



技術提供をすることは、
環境破壊を防ぎ
争いを防止することにつながる
という意味で平和に貢献する

戦争中に、相手国と交流はできない。
国際理解は争いの抑止力となる。

平和な世界の構築
⇒ 持続可能な社会を実現
することが前提

社会構造

資源

- ＞エネルギー
- ＞水
- ＞食料
- ＞人 など

戦争は環境破壊を引き起こす
環境破壊は争いを引き起こしかねない

環境を保全することが
平和につながる



環境破壊を防ぐことは、
争いを防止することにつながり、
平和に貢献することが出来る

かつては外交手段
の一つだった。

戦争は違法？

1928年「戦争放棄に関する条約
(不戦条約)」締結

ヒバクシャは日本だけじゃない

被爆者 … 原子爆弾による被爆
被曝者 … 放射線による被曝

グローバルヒバクシャ
… 広島・長崎の被爆者だけでなく、核実験・原発事故・ウラン採掘の被害者など、
世界中の全ての被ばく者のこと

市民・消費者としてできることは？

- ・世界で起きていることを知る
- ・国際理解を進める（外国人の友達を作る）
- ・環境保全や人権保護や平和に配慮して作られた商品を購入することで、積極的平和を進める
- ・環境と平和の繋がりに関して周りの人に伝える など

世界では戦争・紛争が絶えませんが、平和について考え、できることを実践し続けている人たちがいます。戦争がない状態を指す「消極的平和」と、貧困・差別・抑圧などの構造的暴力がない状態を指す「積極的平和」を唱えたのもそんな人たちです。

「消極的平和」さえ実現できていないのに「積極的平和」なんてムリ、と折れそうになりますが、貧困・差別・抑圧などが争いの種になることを考えれば、可能な場所から「積極的平和」を広げていくことが戦争などの直接的暴力をなくすことに繋がるのでしょうか。技術提供や環境

協力も、遠回りであっても平和の実現に一役買っていると思えば GEN も少しは役に立っているのでしょうか。やまない戦争の前に個人は直接的には無力ですが、戦争の非当事国で暮らしていることに感謝し、間接的にでも世界の平和にむけて努力していきたいものです。

～ 開催要項 ～

今回の講演では、「三農」で起きた地殻変動ともいべき激変に焦点をあて、食糧生産、農村振興、都市農村間の格差などについて、現地調査の一次情報を交えて、政策・制度や統計データに基づく分析・解説をしていただきます。

～ 開催記録 ～

GEN が大同で緑化協力を始めたのが 1992 年。大同の農村は圧倒的に貧しかった。90 年代は干ばつが繰り返したこともあり、貧困の印象が濃い。2000 年代に入っ

困の影は薄くなった。今講演で、中国の年初の政策文書「中央一号文件」で、1987 年から 2003 年までの 17 年間農業関係の問題が取り上げられなかったとの指摘を聞いて、GEN は現代で中国の農村が一番大変だった時に協力を始めたのだと納得がいった。その後、農家への補助の充実、農業経営の大規模化、輸出入の拡大、戸籍制度の改革などによって農村の絶対的貧困はほぼ解決されたが、都市部との格差、相対的貧困はいまも残り、抱える課題も多い。

～ 開 催 要 項 ～

日時	2025 年 5 月 29 日（木）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	伊藤正侑子さん（認定 NPO 法人 FEE Japan 理事長）
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開催記録 ～

LEAF

Learning About Forests

LEAF

Learning About Forests

LEAFとは

SDGs

持続可能な開発目標の三本柱「経済・社会・環境」と環境教育が必要な視点・環境と社会、経済及び文化を統合させた

森林の4つの側面

(生態学的、文化的、社会的、経済的役割)

についてバランス良く学ぶことで、

持続可能な未来のための、よい選択のできる人を育てるプログラムです。

→ 気候変動対策にも SDGsにも 影響

FEE 環境教育基金

Foundation for Environmental Education

森林の多面的な機能と 森林の多様性を活用したプログラム

1983 年
Norway/Sweden/Finlandの森林環境プログラムとして開始

2000 年
国際環境教育基金FEEのプログラムとして世界的に展開

持続可能な社会の3つの側面

- ・持続可能な社会は、地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会

- ・持続可能な社会をつくるために、**経済・社会・環境**という3つの主要要素を調和させることが不可欠
(国連開発センター-UNEP)

LEAFの目的

持続可能な社会をつくるための、
よい選択のできる人を育てること

30年前には無かったもの

30年くらい前にはなかったもの

社会の仕組みの変化をおこせる

[2020年4月] じぶん、どうしたいの？ 3歳児と高齢者の「アムニエーション」

よい選択とは

例が正しいかを考えることで自然と、富める社会の中で
持続可能な社会あるべき姿を自然に考え、
そのための選択ができる

目的の達成が良しとする未来への影響を考慮して、
目的達成と社会あるべき姿の持続可能な開発を考慮、
選択することになる

森林の4つの側面

生態学的、文化的、社会的、経済的役割

気つきと共有

Clever Question, Good Decision

「楽しく学ぶ」にはじまり、「気づき」、「理解」、「判断」、「未来への責任」という LEAF の 6 つのステップ、GEN のイベントなどでもこのステップを何段か上げられるように工夫したいと思います。

GEN なんでも勉強会オンライン

1.5℃をめざす世界の動き

－ 気候変動に関する国際交渉会議(COP)の最新レポート－

～ 開催要項 ～

2024 年は観測史上最も暑い年となり、気候変動により激甚化した災害が世界各地を襲いました。国際社会ではこの気候危機に立ち向かうためにどんなことを議論し、行動しているのでしょうか。昨年アゼルバイジャンで開催された COP29(気候変動枠組条約第 29 回締約国会議)に参加し現地で体験したことを交えながら、気候変動問題に取り組むための国際的な枠組みであるパリ協定や 1.5℃目標、気候変動に関する国際交渉会議(COP)について紹介します。

日時	2025 年 4 月 23 日 (水) 19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	田中十紀恵さん (認定 NPO 法人気候ネットワーク国際コーディネーター)
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開催記録 ～

参加人数	21 名
------	------

まず、地球温暖化は人間活動が原因であるのは疑う余地がないと判明していること。産業革命前と比べて、世界の平均気温上昇を 1.5℃未満に抑えることをめざす必要があり、そのためには 2020 年代の 10 年の行動がカギとされていること。などを再確認しました。

COP では有効な対策がなかなか出てこないと感じますが、多数決ではなく全ての国の合意で決定されるため、妥協点をさぐることになるそうです。COP29 では気候資金目標が大きなテーマで、不十分ながらも一応の結果は得られました。しかし、排出削減目標は次回に持ち越されています。

トランプ米大統領の影響が心配ですが、アメリカでも 5000 以上の非国家アクターのグループ「America is All in」が政権に関係なく一貫して気候変動対策に取り組むと表明するなど、対策を

進める人たちがたくさんいるとのことで心強く感じました。ひるがえって日本は CCPI による気候変動対策の取り組み評価で 67 か国中 58 位。その日本に暮らす私たちの気候変動問題に向き合う視点が、最後にいくつか示されましたが、「気候変動への取り組みは我慢ではなく、暮らしをよりよくする試み」という一節が印象的でした。

